

議会報告会実施報告書

開催日時	平成 27 年 5 月 24 日（日）午後 2 時から午後 4 時 30 分				
開催会場	桜ヶ丘公民館				
班長	板津博之				
司会者	板津博之				
報告者	小川富貴・勝野正規				
記録者	第 1 部：野呂和久 第 3 部：川合敏己、澤野伸、野呂和久、伊藤壽、天羽良明				
参加議員	林 則夫	可児 慶志	亀谷 光	伊藤 健二	小川 富貴
	中村 悟	野呂 和久	天羽 良明	川合 敏己	酒井 正司
	澤野 伸	板津 博之	勝野 正規	伊藤 壽	
参加者数	22 名				
実施内容	第 1 部：平成 27 年度予算審査について（報告・質疑応答） 第 2 部：議員定数・報酬について（報告） 第 3 部：議会・議員の活動について（意見交換）				
主な意見 提言等	<p>【第 1 部】質疑応答</p> <p>問：地域包括ケアシステム構築のためのモデル事業に支援策を行うとのことだが、財政的・人力的・物品的支援が考えられると思うが具体的に何か決まっているのか。</p> <p>答：帷子地区で地域の支え合いを先進的に取組んでいる若葉台をモデル地区としてケアシステム構築の為のさまざまな検証を行う段階であり、財政的・人力的・物品のことも含めて検証が行われる。まだ具体的な支援策は決まっていない。</p> <p>可児市はKケアシステム構築を進めている。地域ケア会議を順次開催しており、在宅介護・在宅医療を整備しつつ地域住民の方との連携を取りながら地域の福祉サービスを充実させていけるよう計画をつくっている。</p> <p>問：モデル事業として検証される地域に対し支援策が重要だと思うが、今後慎重に検討されていくのか。</p> <p>答：その通りです。</p> <p>問：「議会のとびら」から質問したい。Kマネー予算 1 億 2, 2 1 0 万円について期待される効果と目的は。</p> <p>答：効果についてはまだ検証中である。</p> <p>問：健康診査の充実を図るとあるが、その充実策とは。</p> <p>答：特定健診の受診を促すため、スポーツクラブ利用サービス券の発行や個別に健診案内の送付、また健診月を選択できるようにした。</p>				

問：補助金審査について精査されているのか。（効果・目的および適正使用）

答：予算審査の際、補助金の充実された点や内容について十分に審査を行なっている。

【第3部】意見交換

議会・議員の活動について

県内の市人口規模でみると定数は上位5番目であるが、報酬は上位7番目であり多くはない。しかし、個人的には議員定数は5名ほど削減すべきと考える。その削減した財源分は他の事業に分配するべきである。削減後の残りの議員報酬に一部を分配することもひとつの考えである。

今回の議会報告は議員の報酬を上げたいように聞こえたが、年間の報酬は我々より上である。しかし、議員の地域の付き合いを考えると仕方が無いとも思える。

例えば下呂市議会議員26名であるので、一人の議員を住民一人あたりで約193円負担している。可児市議会議員は定員22名であるので、1人の議員を住民1人あたりで約87円の負担となっている。

議会、議員はもっと存在感を発揮してほしい。そのためにも監視力を高めてほしい。議員として何を活動するのか、議会として何をするのか。議員力、議会力を高めて欲しい。日本で少子高齢化は初めての事である。だからこそ議会の活動に期待したい。前回の県議会選挙の投票率は34%台だった。しかし皐月、桜の住民はどうしても可児より名古屋を向いて生活している感がある。可児の選挙より名古屋の選挙が気になる。

議員定数・報酬については全国平均をみても妥当性はあると思う。

しかし将来の財政状況によっては見直しも必要になるかもしれない。

有権者が納得していれば、（姿勢に満足感）があれば、議員報酬も高くても問題ない。

議員活動の効果が明確になるような数値が示されれば、よいのではないか。

A) 市民の満足度も多様性がある、ある一定の数値をどのように基準を設けるかが課題ではないでしょうか。

大学のゼミで「市民や若い世代の人々に如何に関心を持たせるためにどのようにするか」という課題に対して、明確な回答や策が出てこなかった。

フェイスブックやホームページなどいろいろあるが、議員が、市民に対して直接個々に対面することが、一番ではないか。

議員定数を単純に減らすというのは民主主義の根幹に関わると思うし、可児市では少ない方ではないのか。

議員報酬が40万円では安いのではないか。（60万円ぐらいが妥当）

議会は予算や条例等の議決権があり、大切な仕事である。

誰でも議員に立候補できる仕組みにすべきだが、議会活動が消極的な議員もいる。議員報酬を固定給（35万円）部分と歩合給部分（+、-5万円）の2段階にしては。

議会質問を原稿のやり取りをしないアドリブ方式でやって見ては。

オープンになった半面、細かいところが見えてこない。

議会改革を行い、市民の声をより多く届けることが大事。地域の方がほとんど来ていない。もう少し考えて行う必要がある。

多治見でもなかなか来てもらえない。最初は多いがだんだん減ってくる。どうしたら関心を持ってやって頂ける。

活動表はどのようにまとめたか。

A) 議員の活動が見えるように特別委員会でまとめた。

地方議員が抱える問題として、40万円で年金なし、退職金なしでは、誰もやる人がいない。

若い人が立候補しないという頭の痛い問題である。

多治見市では、若い二人が議員になったが、どうゆう生活をしていくか楽しみ。

議員は、名誉職ではなく、職業であると言っている。議員が市民に対してPR不足、見える化をしていない。昔は新しい事をするとう潰されたが、今は新しい事をどんどんやっていかなければならない。

こうゆう「まち」を創ろうと変えていかなければ。議会の中でやっていかなければ。地域の中でアンテナをはって何が問題か。

A) 今は地方創生でこうやりますからということで進めていかなければいけない。皆で議論し方向性を定めていかなければいけない。

議員定数について市民の意見を拾うにはどの位が良いか。

A) 議会活性化特別委員会の報告として、もう少し詳しいものを出すので是非見て欲しい。

定数22人に関して、兼山町では、エリア内の問題で出られない。出ようという人が出た時点で、色々問題がある。昔からの序列があり、間違えると出られなくなる。

現在は、議員の年齢層は、若い議員も数名いるのでバランスがいいと思う。

議員の頑張りが伝わっているか？特に若い人に・・・活動の動きを広く知らせなければいけない。

議員の活動量がわからないので報酬が妥当かわからない。

議員の数を、近隣の多治見、各務原、恵那、土岐など一覽で市民に示せばわかりやすい。10万人都市の比較など何人が平均なのか？

A) 24人が平均です。

可児市議会は、議会基本条例をつくって活発に活動している。活動量を市民に示し、プロ化をめざしているので報酬をあげてもよい。

議員は、選挙に勝たなければならないので、地元地域のことを一生懸命になるのはわかるが、「市全体を大所高所からみて、地域に反映して欲しい」

効用価値説にたつのは、活動してきたあとについてくる結果である。

常任委員会を3つも重なっていると 議論がうすくなるのではないか。

委員長は、自分の委員会のことが責任があり一生懸命になり過ぎ。

若い世代の投票率が低い。可児市としてどう考えていくのか。

包括的で内容がよく分からない。予算の説明資料を見ても分からないと思う。どこまで行政の資料を分かっているのか。

A) 良く精読したうえで、質疑、回答、討論を行い採決を行っている。(予算審査の流れを説明)

予算決算委員会審査結果報告に対する対応に道路維持管理事業があるが、どの様に損傷調査を行っているのか。

A) これは私が出した提言であるが、車でチェックし、公平に道路整備を行った。

議会・議員の活動以外に関する意見

低投票率など選ぶ側にも課題があるのではないか。

国際交流事業に注目したい。ただの、旅行にしては絶対にいけない。人と人の結びつきをつくってこないと意味がない。

観光、国際交流に力を入れていくべきである。

マイナンバー制度で合理化が図れたら余った職員は子育て等、市が力を入れているところにまわすべきである。可児市は子どもを産み育てる環境が今ひとつである。

例えば防災市活動補助金はない。市側の理由を聞くと前例ないためとのことだった。

もったきちんと考えて補助金を考えるべきである。

高齢者の独り暮らしの問題も多くなってきている、自治会の問題も顕著化になってきている。ぜひ議員の皆さんとも相談していきたい。

A) ぜひ市役所に議員控室もあり、ほぼ毎日誰かいるので、気軽に声をかけていただきたい。

地域包括支援システムのこの資料では分からないので討議できない。

空き家問題や高齢化も心配だ。空き家を活用したバンク等、若い人が移住したくなることを検討して欲しい。

人口の減少等で公共施設（公民館や学校など）の統廃合の問題が心配だ。

民生委員のやり手がない。消防団など支援策を講じているが民生委員についても検討をお願いしたい。

平成 27 年 6 月 5 日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

議会報告会 会場 桜ヶ丘公民館 班長 板津 博之 ⑩